

農・畜産・水産業の振興と農村活性化や、林業・木材産業の振興と新たな森林環境管理体制の構築を進めます。

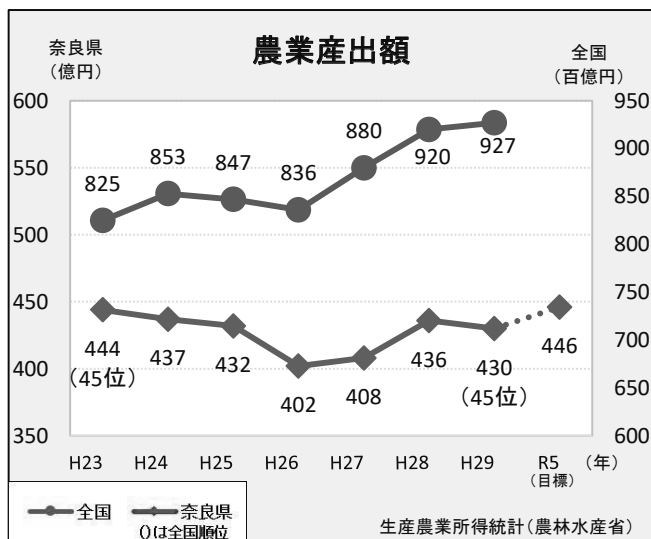
農・畜産・水産業の振興と農村の活性化

目指す姿

令和5(2023)年までに、農業産出額を446億円に増加させます。

主担当部局(長)名
農林部長 杉山 孝

1. 政策目標(目指す姿)達成に向けた進捗状況

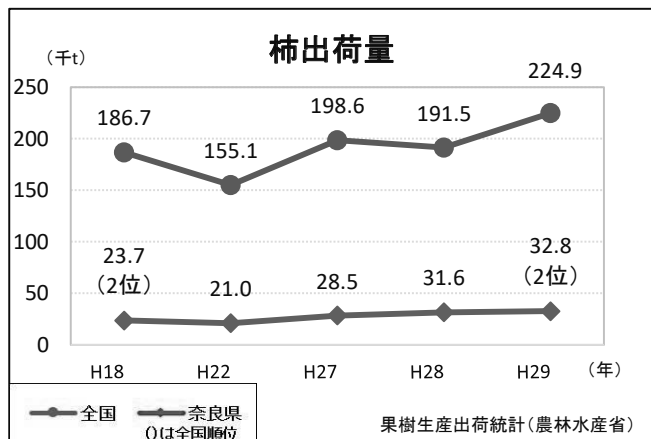


指標	農業産出額(億円)				
	基準値		実績値	進捗率(傾向)	目標値
	444	↘	430	基準値を下回っています	446
	H23 (2011)	14 億円	H29 (2017)	$\frac{6}{12}$ 年目	R5 (2023)

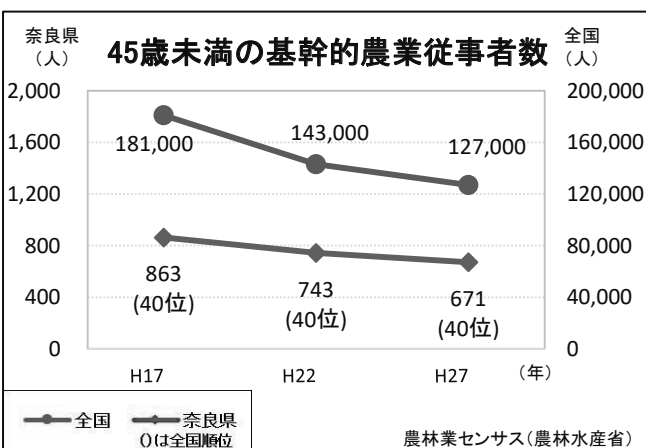
進捗状況

新規就農者の確保や、高品質生産への支援等により、農業産出額の増加に取り組んでいるものの、花きの単価変動等による生産額の減のほか、全国的な米価の回復により高収益作物への転換や、担い手への農地集積が進み難い状況であること等から、平成29年の農業産出額は430億円と、平成28年より6億円減少しました。今後も引き続き、農業産出額を増加する取組を進めていきます。

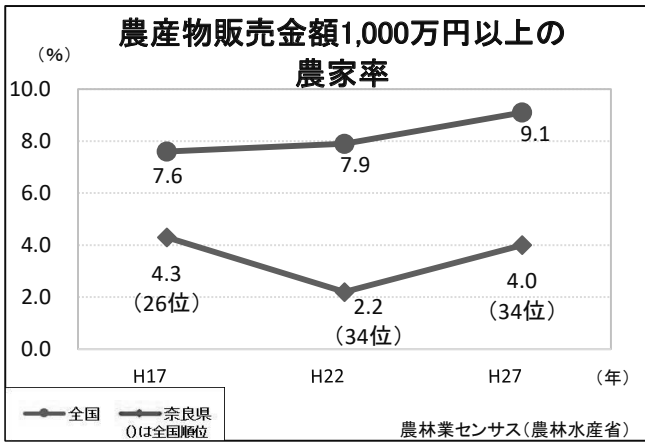
2. 現状分析



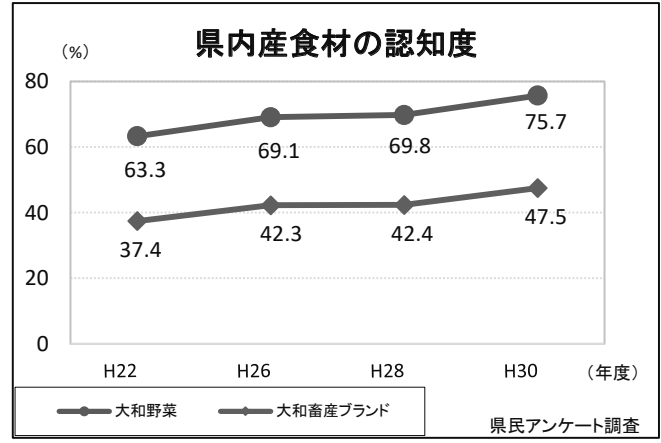
柿出荷量は全国2位で、全国の出荷量の15%を占めています。(→戦略2)



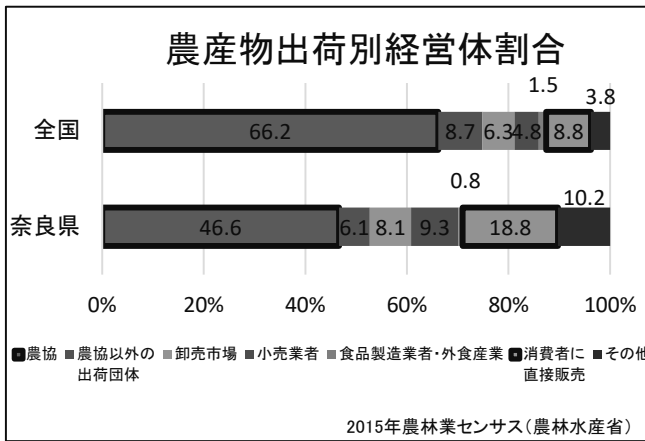
45歳未満の基幹的農業従事者数は、全国と同様に徐々に低下しています。(→戦略3)



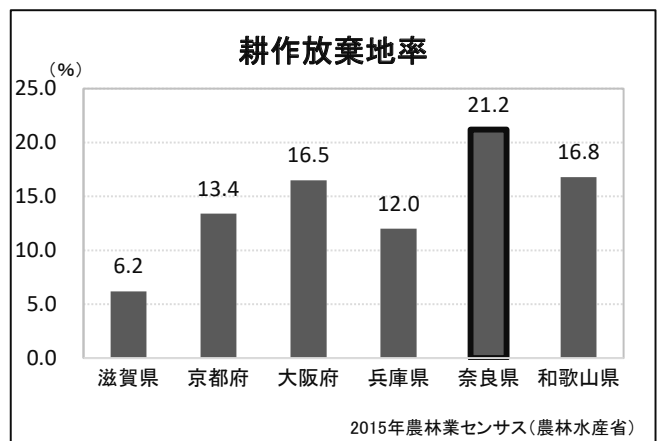
農産物販売金額1,000万円以上の農家率は、全国的に増加傾向ですが、奈良県では、柿や小菊等の生産者を中心に近年増加しているものの、その年によって変動が大きくなっています。(→戦略2,3)



県内産食材の認知度は、大和野菜及び大和牛やヤマトポーク等の大和畜産ブランドが共に上昇しています。(→戦略2)



全国平均と比較して、農協への出荷割合が低く、消費者への直接販売の割合が高くなっています。(→戦略1,2)



奈良県の耕作放棄地率は21.2%と、近畿で最も高くなっています。(→戦略3)

3. 平成29年度の評価及び平成30年度の取組等を踏まえ、令和元年度に向けて見直した内容

消費者の需要に応じた農畜水産物の生産振興を図るため、今後10年を見通した全国的な消費動向や他府県を含めた産地の状況を把握し、それを踏まえた生産振興を図る品目や販売、流通ルート等の検討を行い、農業振興マーケティング基本戦略を策定します。当該戦略に基づき、具体的な取組みを進めていきます。

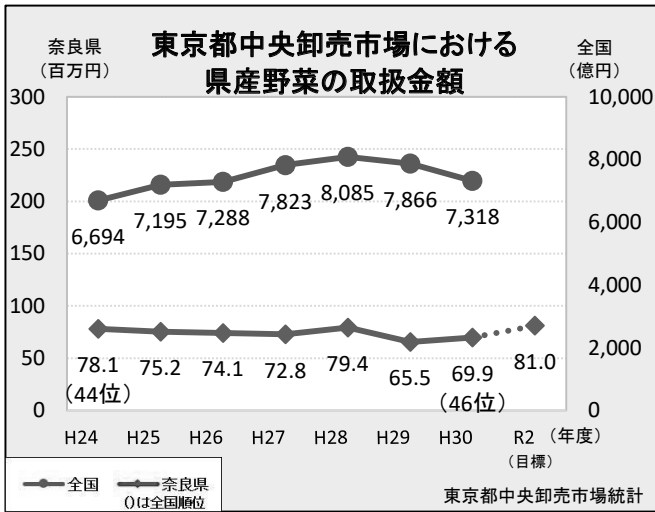
4. 戦略目標達成に向けた進捗状況

戦略1 県産農産物の販路拡大と美味しい「食」づくりを推進します。

主担当課(長)名

マーケティング課長 原 実

戦略目標



指標	東京都中央卸売市場における奈良県産野菜の取扱金額(百万円)				
	基準値		実績値	進捗率(傾向)	目標値
①	78.1		69.9	▲282.8%	81.0
	H24 (2012)	8.2 百万円	H30 (2018)	6/8 年目	R2 (2020)

進捗状況

全国一の青果物取扱量を誇る東京都中央卸売市場において、奈良県産青果物は、大和丸なす等が主に取引されています。平成30年度は、大和野菜等の販路開拓に取り組んだことにより、東京都中央卸売市場における奈良県産野菜の取扱金額は、天候不良等により大きく落ち込んだ平成29年度から4.4百万円増加しています。引き続き、目標達成に向けて市場でのセールス等に取り組んでいきます。

指標	進捗状況	基準値		実績値	進捗率(傾向)	目標値
② 県内農産物直売所での売上額(億円)	大和野菜等の県産農産物のPRや協定直売所を中心とした直売所支援等により、売上額は順調に増加し、目標を達成しました。	42	↑	96	101.9%	95
		H19 (2007)	54 億円	H30 (2018)	11/13 年目	R2 (2020)
③ 6次産業化の総合化事業計画認定件数[累計](件)	6次産業化サポートセンターを設置し、プランナー派遣や研修会等の実施により農業者の6次産業化を支援することで、認定件数は増加しています。	17	↑	58	95.3%	60
		H23 (2011)	41 件	H30 (2018)	7/9 年目	R2 (2020)

主な取組指標等

首都圏・海外等での販路拡大(①)	多様な流通経路の形成(②)	奈良の美しい「食」づくりとプロモーションの強化(③)
奈良の柿の輸出量(t)	協定直売所締結数(店舗)	1日当たり奈良フードフェスティバル来場者数(人/日)
24	33	8,638
↑	↑	↑
40	38	11,111
H26 (2014)	H26 (2014)	H26 (2014)
66.7 %	15.2 %	28.6 %
H30 (2018)	H30 (2018)	H30 (2018)

目標達成に向けた成果

平成30年3月に策定した「奈良県中央卸売市場再整備基本構想」を踏まえ、中央卸売市場の再整備に向けた課題整理や整備手法、土地利用計画や施設配置(案)等を取りまとめました。(①)

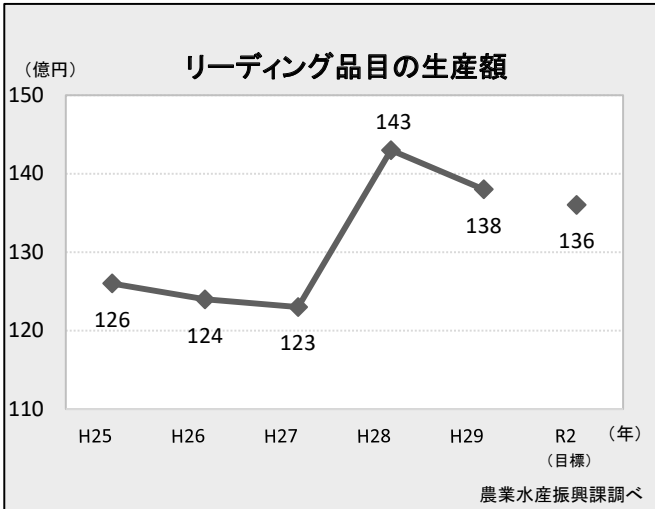
県産食材のイメージアップやブランド力向上のため平成28年1月に東京白金台にオープンした奈良の「食」と「魅力」の発信拠点である「ときのもり」のレストラン「シエル エ ソル」が、3年連続でミシュラン一星を獲得しました。(①)

戦略2 県産農・畜・水産物の生産力強化を図ります。

主担当課(長)名

農業水産振興課長 田中 良宏

戦略目標



指標 ①	リーディング品目の生産額(柿、キク、イチゴ、茶、大和畜産ブランド、金魚)(億円)				
	基準値		実績値	進捗率(傾向)	目標値
	126	↑	138	120.0%	136
	H25 (2013)	12 (億円)	H29 (2017)	4 7 年目	R2 (2020)

進捗状況
平成29年のリーディング品目の生産額は、茶では、GAP(農業生産工程管理)認証の取得や、海外向け生産等への取組により増加しましたが、キクでは、盆の需要期と開花時期のずれにより生産額が減少しました。このため、全体の生産額は138億円となり、平成28年から5億円減少しましたが、目標値の136億円は達成しています。

指標	進捗状況	基準値		実績値	進捗率(傾向)	目標値
②	チャレンジ品目の生産額(大和野菜、サクランボ、切り花ダリア、切り枝花木、有機野菜、イチジク、アユ、アマゴ)(億円)	18.0	↑	19.3	65.0%	20.0
	切り枝花木の減少等があったものの、大和まなの増産等により、実績値は19.3億円となりました。	H25 (2013)	1.3 億円	H29 (2017)	4 7 年目	R2 (2020)
③	研究者1人当たりの産地で活用された技術件数(件/人)	0.38	↑	0.70	266.7%	0.50
	天敵によるイチゴの害虫防除技術の確立等に取り組んだ結果、実績値は0.70件となり、目標を達成しました。	H25 (2013)	0.32 件/人	H30 (2018)	5 5 年目	H30 (2018)

主な取組指標等

品質によるブランド認証制度の推進①		
奈良県プレミアムセレクト認証団体数[累計](団体)		
5	↑	7
H28 (2016)	2 団体	H30 (2018)

チャレンジ品目等の生産拡大・販路開拓②		
大和野菜の生産額(百万円)		
610	↑	743
H25 (2013)	21.8 %	H29 (2017)

農業研究開発センターの研究機能の高度化③		
優良品種の育成件数(新品種の出願、登録)(件)		
8	↑	12
H24 (2012)	50.0 %	H30 (2018)

目標達成に向けた成果

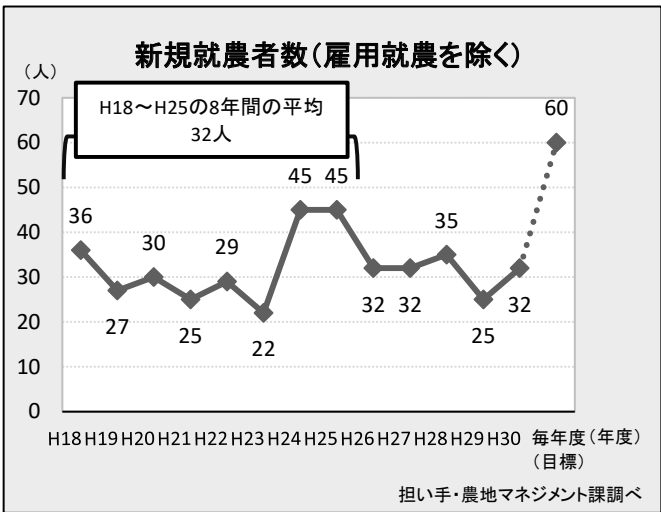
品質によるブランド認証制度「奈良県プレミアムセレクト」において、平成30年度は新たに1団体(ハウス栽培・柿(刀根早生))を認証しました。(①)

大和野菜の増産を目指し、産地パワーアップ事業の活用により、大和まな等のパイプハウスを増設しました。また、面積拡大を図るため、チャレンジ品目支援事業により、2品目(味間いも、祝だいこん)で生産体制整備(洗浄機の導入)を行いました。(②)

戦略3 意欲のある担い手の育成・確保と農地のマネジメントを推進します。

主担当課(長)名
担い手・農地マネジメント課長
服部 太一

戦略目標



指標①	新規就農者数(雇用就農を除く)(人)				
	基準値		実績値	進捗率(傾向)	目標値
	32	→	32	0.0%	60
	H18~H25 2006~2013	増減 なし	H30 (2018)		毎年度

進捗状況

NAFICや農家研修での人材育成や、就農前後の資金面の支援等の取組により、新規就農者の確保に努めたものの、農業参入コストが大きいことや販路先の確保等、農業全般を取り巻く環境の厳しさに加え、農地の確保の難しさが大きな要因となり、平成30年度の新規就農者(雇用就農を除く)は32人と、目標を下回りました。

指標	進捗状況	基準値		実績値	進捗率(傾向)	目標値
② 農業法人数(法人)	法人化セミナーの開催等により農業法人の育成に努めましたが、実績値は9法人で、目標の達成には至りませんでした。	9	→	9	0.0%	10
		H18 (2006)	増減 なし	H30 (2018)		毎年度
③ 担い手への農地集積率(%)	農地中間管理事業により農地集約に努めた結果、実績値は基準値から4.6ポイント増加しており、目標達成に向けて進捗しています。	12	↑	16.6	20.9%	34
		H25 (2013)	4.6 ポイント	H30 (2018)	5 10 年目	R5 (2023)

主な取組指標等

新規就農者等への支援①		
就農相談・営農指導件数(件)		
525	↑	1,258
H24 (2012)	2.4 倍	H30 (2018)

農・畜産・水産業経営に意欲ある担い手の育成・確保①、②		
家族経営協定の締結件数[累計](件)		
198	↑	217
H24 (2012)	19 件	H30 (2018)

農地マネジメントの推進と農地の有効活用への支援①、②、③		
「人・農地プラン」の作成地区数[累計](地区)		
74	↑	154
H24 (2012)	80 地区	H30 (2018)

目標達成に向けた成果

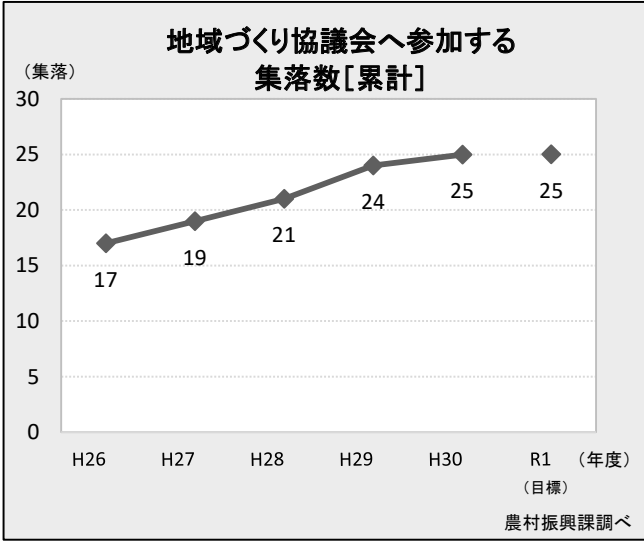
平成28年4月に開講した「なら食と農の魅力創造国際大学校」(NAFIC)のアグリマネジメント学科で第2期生が卒業し、そのうち14人が新規就農(自営就農9人、雇用就農5人)しました。(①)

多様な担い手の育成として、シニア世代に耕作放棄地を再生した農地を貸し出し、技術支援を行いながら農業に取り組む研修事業を実施しました。平成26年度から平成30年度までに合計14人が研修を受講し、そのうち13人が就農しました。(①)

戦略4 地域資源を活用した農村地域の活性化を図ります。

主担当課(長)名
農村振興課長 小林 健二

戦略目標



指標①	地域づくり協議会へ参加する集落数[累計](集落)				
	基準値		実績値	進捗率(傾向)	目標値
	17	↑	25	100.0%	25
	H26 (2014)	8 集落	H30 (2018)	$\frac{4}{5}$ 年目	R1 (2019)
進捗状況	平成30年度は、奈良県農村地域づくり協議会が実施する「地域づくり実践活動及び研修会・意見交換会」等への支援に取り組んだ結果、下市町で組織が設立され、参加する集落数が25集落となり、令和元年度までの目標値を1年早く達成しました。引き続き、協議会への支援を進め、集落数の増加に取り組んでいきます。				

指標	進捗状況	基準値		実績値	進捗率(傾向)	目標値
② 有害獣であるニホンジカの年間捕獲数(頭)	市町村・地元の連携や、国の事業の活用等、総合的な対策を行うことにより、有害獣の捕獲数が毎年増加しています。	2,831	↑	9,028	86.4%	10,000
		H18 (2006)	6,197 頭	H29 (2017)	$\frac{11}{14}$ 年目	R2 (2020)

主な取組指標等

農地や農村風景の維持・機能の増進①		
柿葉生産数(万枚)		
54	↑	146
H27 (2015)	2.7 倍	H30 (2018)

農地や農村風景の維持・機能の増進①		
水田を活用した貯留対策取組市町村数[累計](市町村)		
11	→	11
H27 (2015)	増減なし	H30 (2018)

農村資源を活用した賑わいの創出①		
「ならグリーンツーリズム」HPへのアクセス件数(件)		
39,829	↑	85,412
H27 (2015)	2.1 倍	H30 (2018)

目標達成に向けた成果

新たな地域産業の振興として、集落や企業と連携して柿の葉すし用の国産柿葉生産を図っています。また、農地の持つ多面的機能を活用して、洪水防止対策である水田貯留対策を推進しており、大和川流域総合治水対策の1手法として実施することとなりました。(①)

農村資源情報の発信として、平成30年度に「ならグリーンツーリズム」HPのリニューアルを行い、スマートフォン対応や動画の増数を行った結果、アクセス件数は順調に増加しました。(①)

5. 令和2年度に向けた課題の明確化

目指す姿(再掲)

令和5(2023)年までに、農業産出額を446億円に増加させます。

<奈良県の持っている強み>

- 1 柿(全国2位)、小ギク(同2位)、茶(同7位)は、全国トップクラスの産地を形成
- 2 ハウス柿、二輪ギク、ダリア球根、スイカ種子の生産が全国第1位、イチゴの生産が近畿第1位
- 3 歴史、観光資源、田園景観等の資源が豊富
- 4 大和野菜等伝統ある県産食材
- 5 県内産食材の認知度の上昇
- 6 「なら食と農の魅力創造国際大学校」の開校による「農に強い食の担い手」の育成体制の充実
- 7 農地の有効利用、農業の生産性の向上を図るため、農業の振興を図る地域として特定農業振興ゾーンを設定

<奈良県の抱えている弱み>

- 8 兼業農家等の小規模な担い手が大半で、担い手の減少や高齢化が進展
- 9 柿等の一部品目を除き、全国的に知名度が低い小規模産地であるため、全体として弱い市場競争力
- 10 担い手の高齢化により、ため池等の農業水利施設の維持管理が不十分
- 11 耕作放棄地率が高く、農地の利用が不十分
- 12 全国と比べて水田のほ場整備が遅れており、農地の利用集積を阻害
- 13 有害鳥獣による農作物への被害の多さ

<奈良県への追い風>

- a ミシュランレッドガイドへの掲載等、奈良の食への関心の高まり
- b 質の高い農産物への期待
- c 農産物直売所の普及
- d 地産地消・ジビエ食への関心の高まり
- e 定年退職者の就農や一般法人を含む企業の農業参入
- f TPP等を背景とした積極的農業施策の期待
- g 農福連携への関心の高まり

<奈良県への向かい風>

- h 全産業に占める第1次産業就業者の減少
- i 全国的に高齢化し、担い手が不足
- j 新規就農のための農地確保が困難
- k 過疎化、高齢化による集落機能の低下

<<強みで追い風を活かす課題>>

- [重要課題]** 多様な流通経路の形成による販売促進(県中央卸売市場の活性化等)(1,2,4,5,c,d)
- [重要課題]** リーディング品目の産地競争力強化等(柿、キク、イチゴ、茶、大和畜産ブランド、金魚)(1,2,f)
- ・奈良の美味しい「食」づくりと販売プロモーションの強化(1,2,5,6,a,d)
 - ・首都圏・海外等での販路拡大(1,4,a)
 - ・食と農の振興に関する条例の制定(1,2,3,4,5,6,a,b,c,d)

<<弱みを踏まえ追い風を活かす課題>>

- [重要課題]** 品質によるブランド認証制度の推進(9,a,b,f)
- ・土地改良区、農地利用最適化推進員等との連携強化による農地利用の合理化による耕作放棄地の再生(8,11,e)
 - ・農地マネジメントと連携した農業水利施設等の整備(10,12,e)
 - ・農福連携等多様な担い手への支援(8,11,g)

<<強みで向かい風を克服する課題>>

- [重要課題]** チャレンジ品目の生産拡大等(大和野菜、サクランボ、切り花ダリア、切り枝花木、有機野菜、イチジク、アユ、アマゴ)(2,4,h,k)
- ・新規参入者への支援(1,2,6,h,i,j)
- [重要課題]** 農村資源を活用した地域づくり(NAFIC周辺の賑わいづくり等)(3,6,k)
- [重要課題]** 農地のマネジメントの推進と農地の有効活用への支援(7,j,k)

<<弱みを踏まえ向かい風に備える課題>>

- [重要課題]** 総合的な鳥獣被害防止対策の推進(13,i,k)

6. 平成30年度の評価及び令和元年度を取組等を踏まえた、令和2年度以降を取組方針

強みで追い風を活かす課題	今後の取組方針
多様な流通経路の形成による販売促進(県中央卸売市場の活性化等)(戦略1)	平成30年3月に策定した「奈良県中央卸売市場再整備基本計画」を踏まえた中央卸売市場の再整備を推進し、市場流通の強化とともに県民や観光客を対象とした賑わいのある食の拠点づくりを進めます。
リーディング品目の産地競争力強化等(柿、キク、イチゴ、茶、大和畜産ブランド、金魚)(戦略2)	全国トップクラスの産地を形成している柿、茶、金魚や新品種の育成が進むイチゴ、キク、近年認知度が上昇している大和畜産ブランドについて、農産物の高品質化、農作業の省力化や効率化等による収益の向上と、海外も視野に入れた販路開拓により産地競争力の強化を図ります。

弱みを踏まえ追い風を活かす課題	今後の取組方針
品質によるブランド認証制度の推進(戦略2)	本県産の主要農畜水産物の中でも特に優れた品質のものについて、外観のみならず、内容成分も含めて高品質な「奈良県プレミアムセレクト」に認定し、ブランド農畜産物として販売することにより、市場及び消費地における本県産農畜産物の一層の知名度向上を図るとともに、求められる農畜産物を届けられるように生産力の強化を進めます。

強みで向かい風を克服する課題	今後の取組方針
チャレンジ品目の生産拡大等(大和野菜、サクランボ、切り花ダリア、切り枝花木、有機野菜、イチジク、アユ、アマゴ)(戦略2)	県直営農場を活用した大和野菜の生産者の育成や、産地で問題となっている病虫害等の課題の解消等により、さらなる生産拡大を図ると共に、都市近郊の利点を活かした市場や直売等の多様な販売と首都圏への販路開拓を推進します。
農地のマネジメントの推進と農地の有効活用への支援(戦略3)	奈良県の耕作放棄地は近畿で最も高くなっており、担い手への農地の集積と耕作放棄地の解消を推進するため、農地の出し手と受け手のマッチング等を実施しているところですが、県域での農地のマネジメントを更に推進するため、意欲ある市町村と連携し、特定農業振興ゾーンの設定等を通じて、地域の特性を活かした農業を振興します。
農村資源を活用した地域づくり(NAFIC周辺の賑わいづくり等)(戦略4)	NAFICにおいては、充実した講師陣、教育カリキュラムに加えて併設した実践オーベルジュ等において実施する実践的な教育の効果もあり、卒業生によるレストランなどの開業や有名レストラン等への就職が進んでいます。また、飛鳥・藤原宮跡等周辺観光資源や眺望の良い立地を活かし、新たにセミナーハウス等を設置し、多目的な会合や長期滞在可能な施設にするなど総合的機能を持たせるとともに、NAFIC周辺の賑わいづくり、食と農を活かしたオーベルジュの整備とネットワーク化、山の辺の道周辺の活性化等により、農村の地域資源を活用した賑わいの創出を図ります。

7. 平成30年度の評価及び令和元年度を取組等を踏まえ、令和2年度以降に見直す内容

弱みを踏まえ向かい風に備える課題	今後の取組方針
総合的な鳥獣被害防止対策の推進(戦略4)	鳥獣被害防止対策について、防護柵の設置等により被害額が減少しているものの依然として農作物等への被害があることから、野生鳥獣のエサ場や隠れ場所の除去、防護柵の維持管理、共同捕獲等、地域関係者が一体となった被害対策の取組を支援します。